



# 石垣港 ISHIGAKI PORT

**港 格：**重要港湾  
**港湾管理者：**石垣市  
**所在地：**石垣市（石垣島）  
**設立年月日：**昭和47年5月15日  
**勢力 圏：**八重山地域全域（1市2町）

位置図

港湾区域

港域

## 1. 沿革と概要

石垣港は、石垣島の南西部に位置し、西に竹富島、南に大きなリーフ地帯といった自然の防波堤に囲まれた天然の良港である。

本港は、わが国の最南端に位置する重要港湾として、県内外各地との交流はもとより、台湾交易の定期航路をはじめ、多数の外国船が入港する南の玄関であり、さらに、八重山郡島生活圏の中心として、重要な役割を担っている。また、八重山観光の拠点としても重要な役割を果たしている。

石垣港は、明治29年に海運会社の出張所が設置されて以来、近代港湾への整備が進められ、大正13年には栈橋が完成し、県内をはじめ台湾との交易が活発化した。昭和8年に台風で施設が被災したため、昭和10年に当時の石垣町によりコンクリート栈橋が築造され20トンまでの船が接岸できるようになった。

戦後は、昭和33年、米軍民政府により石垣港新設のための基本調査が実施され、昭和40年には2千トン級船舶が接岸可能となる施設が完成し、その後の群島経済の発展に大きな役割を担ってきた。

沖縄県の本土復帰に伴い、石垣市管理の重要港湾に指定され、1万トン級船舶の利用可能な浜崎町地区をはじめ、離島定期・不定期船のための登野城地区、外貨貨物や危険物等を取扱う新港地区等の整備が進められている。

平成25年12月には、クルーズ船の大型化や需要拡大に対応するターミナル機能の充実やアクセスの利便性を図り、東アジアの中心に位置する特性を活かした交流・サービス機能の強化、観光レクリエーション機能の充実を目指し、港湾計画の改定が行われた。

さらに、平成29年5月にはクルーズ船の寄港回数の増加及び大型化に対応するため、旅客ふ頭計画及び水域施設計画等の変更が行われた。

## 2. 港湾施設の現況

石垣港の港湾施設の概要は、以下のとおりである。

### 【外郭施設】

名 称	延長	型 式	備 考
防波堤東	90m	方塊積	
防波堤西	660m	〃	
沖防波堤西	400m	ケーソン	
沖防波堤南	1,000m	〃	

注：船だまりにおける施設は除く

### 【係留施設】

地区名	名称	水深	パース数	延長	対象船舶	
本 港	岸 壁	9.0m	1	250m	15,000G/T	
		9.0m	1	185m	10,000G/T	
		7.5m	2	260m	5,000D/W	
		7.5m	1	125m	3,000D/W	
		5.0m	3	262m	2,000D/W	
	物揚場	4.0m		357m	200G/T	
		3.0m		120m	20G/T	
登野城	船揚場			100m		
		岸 壁	4.5m	1	95m	500G/T
		物揚場	4.0m		343m	200G/T
	浮栈橋	3.5m		713m	150G/T	
		2.5m		150m	20G/T	
新 港	船揚場			4基	100G/T	
				30m		
	岸 壁	7.5m	1	130m	5,000D/W	
物揚場	5.0m		1	140m	1,000D/W	
	4.0m			300m		

資料：平成29年度 土木建築部要覧



(撮影日 平成17年12月)



### 3. 港湾利用の現況

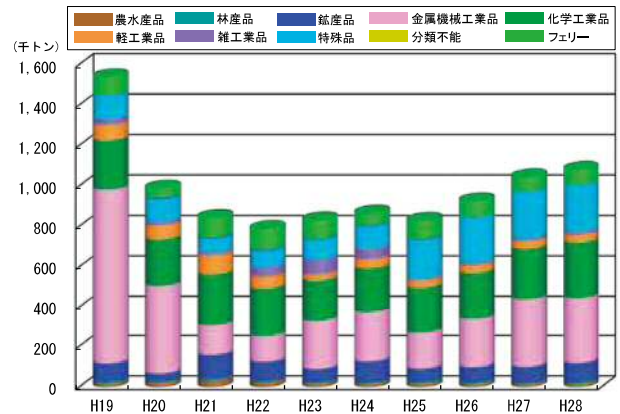
#### ① 港湾取扱貨物量等

石垣港の港湾取扱貨物量は、平成20年に急激に落ち込み、その後はわずかに増減を繰り返しているが、平成26年以降は増加傾向にある。

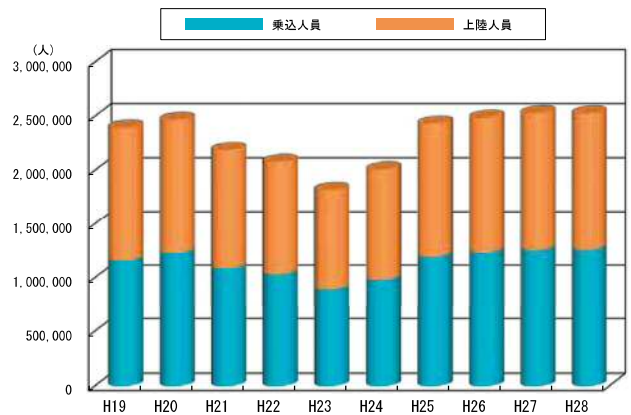
平成28年の港湾取扱貨物量は約108万トンであり、その内訳は輸移出約35万トン、輸移入が約73万トンである。品目別では、金属機械工業品、次いで、化学工業品、特殊品の順に多い。

船舶乗降人員は、平成20年から23年にかけて減少傾向にあったものの、平成24年以降は回復しており、平成28年実績は約253万人となっている。

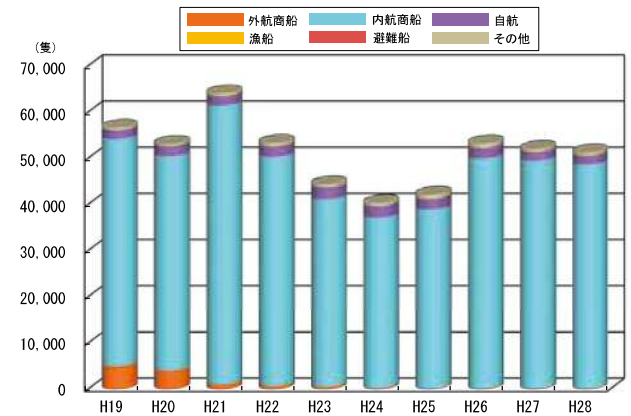
入港船舶隻数は、増減を繰り返しており、平成28年実績は約51千隻となっている。



港湾取扱貨物量の推移(石垣港)



船舶乗降人員の推移(石垣港)



入港船舶隻数の推移(石垣港)

#### 【離島航路】

起 終 点 (寄港地)	船 名	業者名	就航回数
石垣/竹富	にいぬふあぶし	八重山観光 フェリー(株)	4月～9月 10/日 10月～3月 9/日
	ちゅらさん2		月・木 2/週
石垣/小浜	ちゅらさん		6/日
			火・木・土 3/週
石垣/黒島	サザンコーラル		3/日
石垣/黒島/大原	サザンパラダイス		火・土 2/週
石垣/大原	サザンイーグル		1/日
石垣/大原/竹富/石垣	サザンキング		10月～3月 5/日 4月～9月 6/日
石垣/上原	サザンクィーン		月・水・金 3/週
石垣/鳩間/上原/石垣	サザンクロス5号		1/日
石垣/小浜	サザンクィーン	2/日	
石垣/大原	サザンクロス5号	7月～9月 3/日	
石垣/黒島	かりゆし	2/日	
石垣/竹富	かりゆし	火・木・土 3/週	
石垣/竹富	ゆいまる	(有)安栄観光	1/日
石垣/竹富	うみかじ2		9/日
石垣/黒島	第三あんえい号		火・金 2/週
石垣/大原	第八あんえい号		3/日
石垣/上原	第十八あんえい号		4月～9月 5/日 火・木・土 3/週
石垣/小浜	第三十八あんえい号		5/日
石垣/小浜	第八十八あんえい号		5/日
石垣/小浜	第十二あんえい号		4月～9月 6/日 火・金・日 3/週
石垣/小浜	第九十八あんえい号		5/日
石垣/鳩間/上原/石垣	あさび1号		高速船 1/日 フェリー
石垣/波照間	ばいじま	月・水・金 3/週	
	うみかじ	5月～7月 4/日 月・水・金・日	
石垣/波照間	ばいかじ	高速船 4/日 フェリー	4月～9月 4/日
	第五あんえい号		10月～3月 3/日
石垣/竹富	フェリードリーム	石垣島 ドリーム観光 (株)	火・金 2/週
	ドリーム1		9/日
石垣/小浜	ドリーム2		7/日
	ドリーム6		月・火・木・土 4/週
石垣/黒島	ドリーム3		3/日
	ドリーム5		火・金 2/週
石垣/大原	ドリーム7		6/日
	シードリーム		月・木・土 3/週
石垣/鳩間/上原/鳩間/石垣	プレミアム		月・木・土 3/週
石垣/大原/小浜/石垣	ドリーム		2/日
石垣/大原/竹富/石垣	スーパードリーム	1/日	
石垣/小浜/竹富/石垣	フェリーよなくに	1/日	
与那国/石垣	フェリーよなくに	(資)福山海運	2/週

資料：「運輸要覧」(平成29年12月)

#### 【本島航路】

起 終 点 (寄港地)	船 名	業者名	就航回数
那覇/平良/石垣	しゅれい にらいかない ちゅらしま	琉球海運(株)	2/週

資料：「運輸要覧」(平成29年12月)

#### 【外国航路】

起 終 点 (寄港地)	船 名	業者名	就航回数
那覇/平良/石垣 /台湾(基隆)/中国(廈門) /台湾(高雄)/那覇	せつ丸	南西海運(株)	不定期
博多/鹿児島/那覇/平良 /石垣/台湾(台北、高雄)	みやらびII	琉球海運(株)	1/週

資料：「運輸要覧」(平成29年12月)

#### 4. 港湾計画

##### <港湾計画の経緯>

昭和49年 6月	新 規	(第 63回計画部会)
昭和54年11月	改 訂	(第 88回計画部会)
昭和57年 9月	軽易な変更 (浜崎町地区)	
昭和60年 8月	改 訂	(第110回計画部会)

昭和63年 5月	軽易な変更 (登野城地区)	
平成 4年 8月	軽易な変更 (登野城地区)	
平成 8年11月	改 訂	(第161回計画部会)
平成14年11月	改 訂	(第 5回港湾分科会)
平成25年12月	改 訂	(第54回港湾分科会)
平成29年5月	軽易な変更 (新港、浜崎町地区)	

##### <平成25年12月 改 訂>

(港湾計画の方針)

###### 【物流・産業】

- ・圏域の生活・産業を支える物流・生産拠点としての役割を果たすため、大型貨物船への対応など外貿物流機能を強化する。
- ・圏域のエネルギーの供給基地としての役割を果たすため、エネルギー供給基地の拡充を図る。
- ・また、所要の静穏度を確保するため防波堤の拡充を図る。

###### 【安全・安心】

- ・災害時に圏域の生活や経済活動を支える防災拠点としての役割を果たすため、耐震強化岸壁や避難緑地等の大規模地震・津波対策等を図る。
- ・国境離島の領土・領海保全及び広大な海域の安全を図る拠点としての役割を果たすため、領海警備体制等強化への支援を図る。
- ・また、港内航行船舶の安全確保を図る。

###### 【環境】

- ・自然環境と調和した賑わいの浸水空間としての交流拠点としての役割を果たすため、ウォーターフロントにおけるアメティ基盤の充実を図る。

###### 【人流・物流】

- ・東アジアにおけるクルーズ寄港地としての交流拠点としての役割、亜熱帯海洋性リゾート拠点、自然環境と調和した賑わいの親水区間としての交流拠点としての役割を果たすため、クルーズ船の大型化や需要増大に対応するターミナル機能の拡充やアクセスの利便性向上を図り、東アジアの中心に位置する特性を活かした交流・サービス機能の強化、観光レクリエーション機能の拡充を図る。
- ・水辺の雰囲気を活かしたウォーターフロントとして観光客と市民の交流機能の形成を図るとともに、小型船だまりの拡充を図る。

###### 【港湾空間のゾーニング】

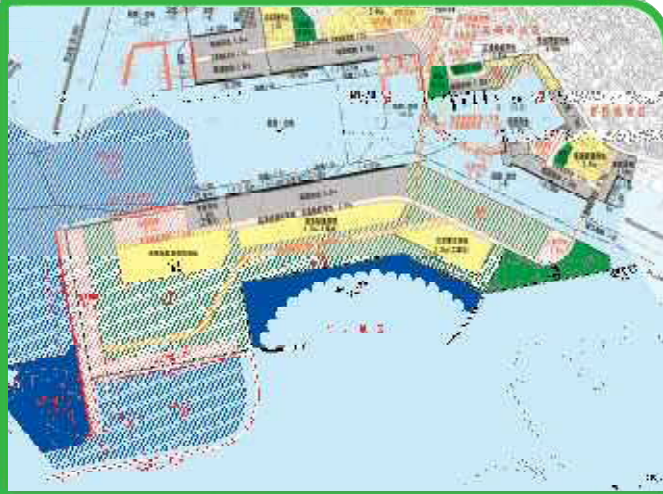
- ・浜崎町地区、新港地区北は、物流関連ゾーンとする。新港地区西、登野城・美崎町地区は、物流拠点ゾーンとする。
- ・新港地区中央の西側から、エネルギー関連ゾーンとする。
- ・新港地区中央から新港地区南は、緑地レクリエーションゾーンとする。
- ・浜崎町地区西、登野城地区、新港地区南の西端、新港地区は、船だまり関連ゾーンとする。







浜崎町・美崎町・登野城地区



平成 17 年 12 月



昭和 47 年 11 月

新港地区



平成 17 年 12 月

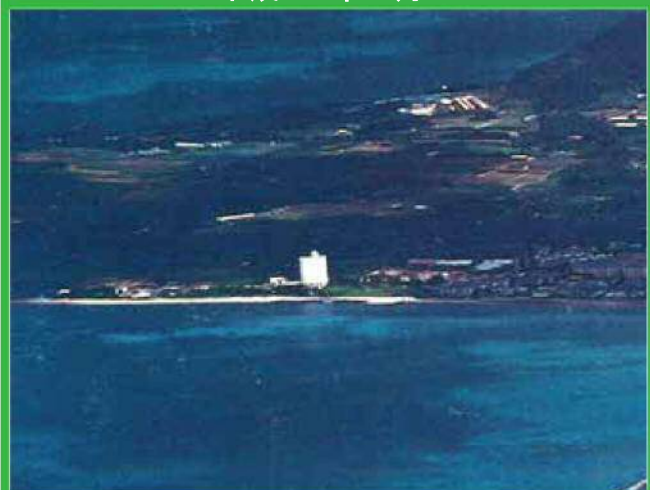


昭和 56 年 3 月

## 新川地区









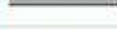



















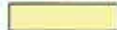


平成 15 年 6 月



昭和 9 年 3 月

### 凡 例

		(今回計画)
	航路・泊地	(既定計画)
		(既 設)
	防波堤	(今回計画)
		(既 設)
	岸壁	(今回計画)
		(既定計画)
		(既 設)
	耐震強化岸壁	(既 設)
	物揚場	(今回計画)
		(既定計画)
		(既 設)
	船揚場	(既 設)
	海浜	(既 設)
	小型棧橋	(今回計画)
	係留浮標	(既定計画)
	ふ頭用地	(今回計画)
		(既定計画)
		(既 設)
	緑地	(今回計画)
		(既 設)
	臨港道路	(今回計画)
		(既定計画)
		(既 設)
	その他用地	(今回計画)
		(既定計画)
		(既 設)
	防波堤撤去	(既 設)
	利用形態を見直し検討していく区域	





新港地区将来完成图



平成17年12月



離島棧橋・旅客待合所(平成17年12月)

## 石西礁湖

石西礁湖は、石垣島と西表島の間広がる日本国内最大のサンゴ礁の海域である。

「石西」という名前は、石垣島の「石」と西表島の「西」から名付けられた。東西約20km、南北約15kmにわたって広がっており、竹富島、小浜島、黒島、新城島周辺海域等が含まれる。400種を超える造礁サンゴが分布し、沖縄本島等へのサンゴ幼生の供給源として重要な役割を果たしている。

1972年5月15日に西表国立公園(現西表石垣国立公園)に指定され、1977年7月1日には、タキドングチ、シモビシ(以上、竹富島周辺)、キャングチ(黒島周辺)、マイビシ(新城島周辺)の4地区が海中公園に指定されている。



石西礁湖